

## 8 労働

### (31) 現在の雇用形態

現在の雇用形態の分布を見ると、正社員が 20.7%と最も多く、次いでパート・アルバイトが 16.4%、無職で仕事を探していない人が 15.7%、学生が 15.4%となっている。

問 31 あなたは現在、どのような形態で仕事をしていますか

表 31 現在の雇用形態

	N	%
経営者	14	3.5%
正社員	82	20.7%
派遣社員・契約社員	44	11.1%
自営業(家業従事者、自由業等含む)	28	7.1%
パートタイム勤務、アルバイト、内職	65	16.4%
学生	61	15.4%
無職(1～6以外で仕事を探している)	27	6.8%
無職(1～6以外で仕事を探していない)	62	15.7%
無回答	13	3.3%
計	396	100%

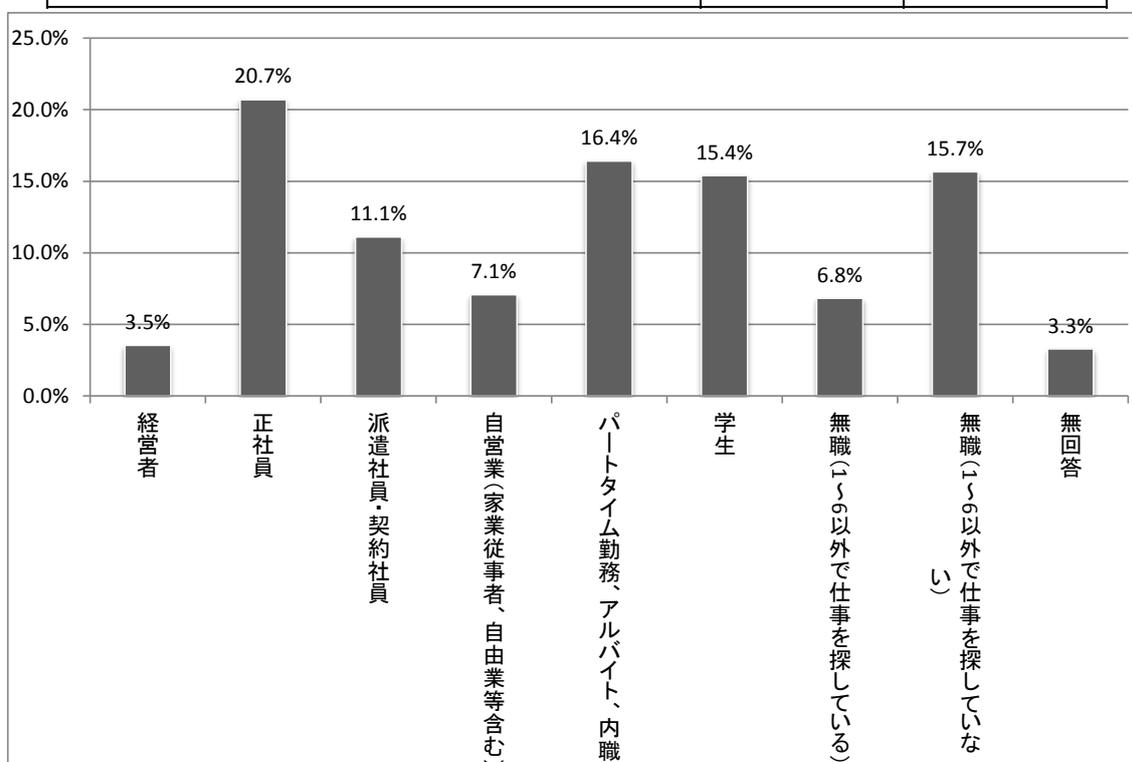


図 31 現在の雇用形態

国籍別に雇用形態の分布を見ると、正社員の割合は米国籍が最も高く 38% となり、中国籍、インドネシア籍で 20% を超えた。これに対し、フィリピン籍はパート・アルバイトが 41%、ベトナム籍は派遣・契約社員が 57% と他の国籍と比較して割合が高い。また、韓国・朝鮮籍では 24% が無職で仕事を探していない。

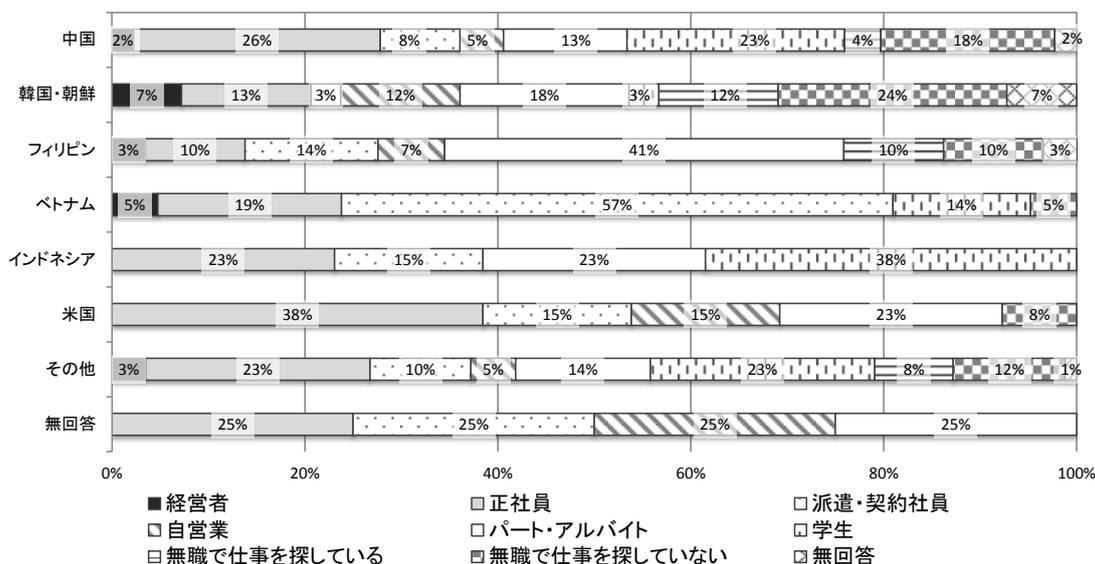


図31-2 国籍別雇用形態の分布(N=396)

在留資格別に雇用形態の分布を見ると、特別永住者と日本人の配偶者では経営者が 10% を超えている。技術・人文知識・国際業務では 71%、教育では 57% が正社員となっており、他の在留資格と比較して割合が高い。これに対し、技能実習では 80% が派遣・契約社員、定住者では 67% がパート・アルバイトと回答している。また、家族滞在では無職で仕事を探していない割合が 48% となっている。

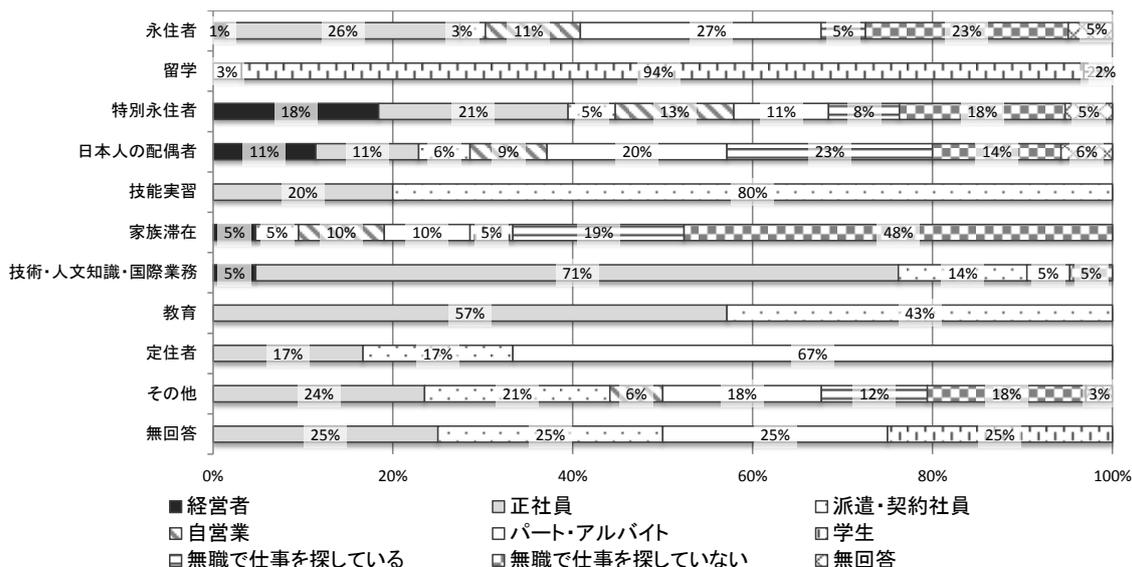


図31-3 在留資格別雇用形態の分布(N=396)

### (32) 現在の職業

職業の分布を見ると、サービス業が 20.2%と最も多く、次いでその他の職業が 16.7%、教員が 14.2%、技能職が 12.0%となっている。

問 32 あなたの現在の職業は以下のうちどれにあたりますか

表 32 現在の職業

	N	%
教員	33	14.2%
医療関係職	5	2.1%
その他の専門職(弁護士、会計士等)	3	1.3%
経営・管理職(課長以上)	14	6.0%
事務職	12	5.2%
技術職(研究員、技術者等)	16	6.9%
技能職(工場労働者、運転士等)	28	12.0%
サービス職(販売員、接客業等)	47	20.2%
作業員(清掃、建設・土木、配達員等)	27	11.6%
農林漁業	5	2.1%
その他の職業	39	16.7%
無回答	4	1.7%
計	233	100%

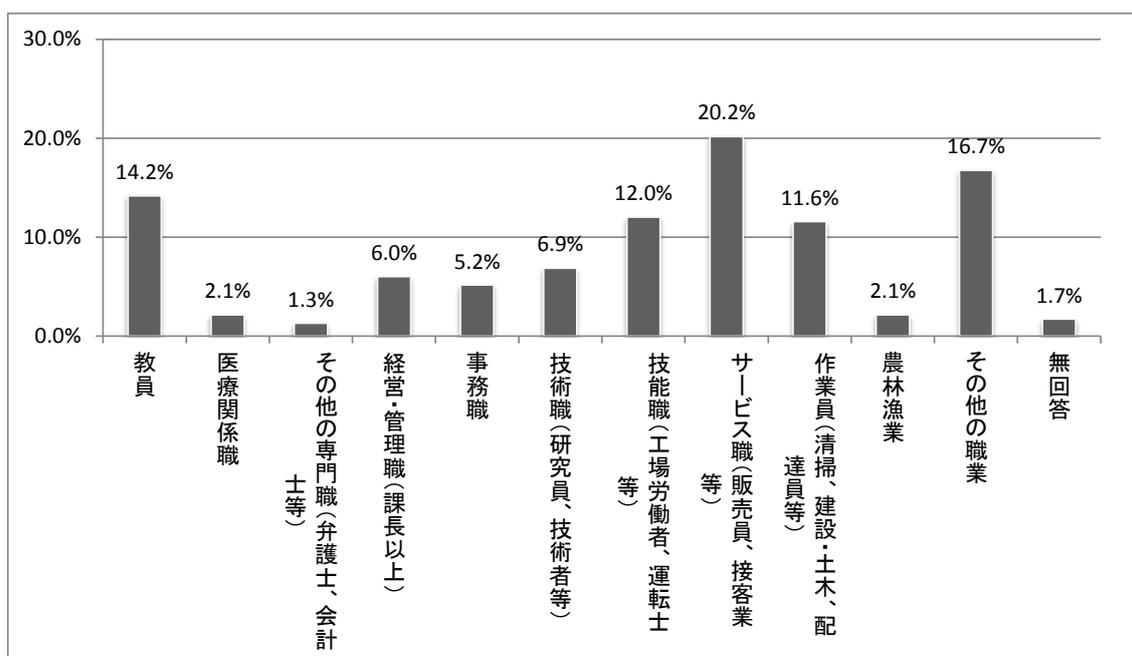


図 32 現在の職業

国籍別に職業の分布を見ると、米国籍は教員が50%を占めている。フィリピン籍では36%、ベトナム籍では41%が技能職・作業員と他の国籍と比較して割合が高い。中国籍、韓国・朝鮮籍、フィリピン籍、インドネシア籍ではサービス業が20%以上となっている。また、インドネシア籍では38%、米国籍では33%が農林漁業・その他と回答している。

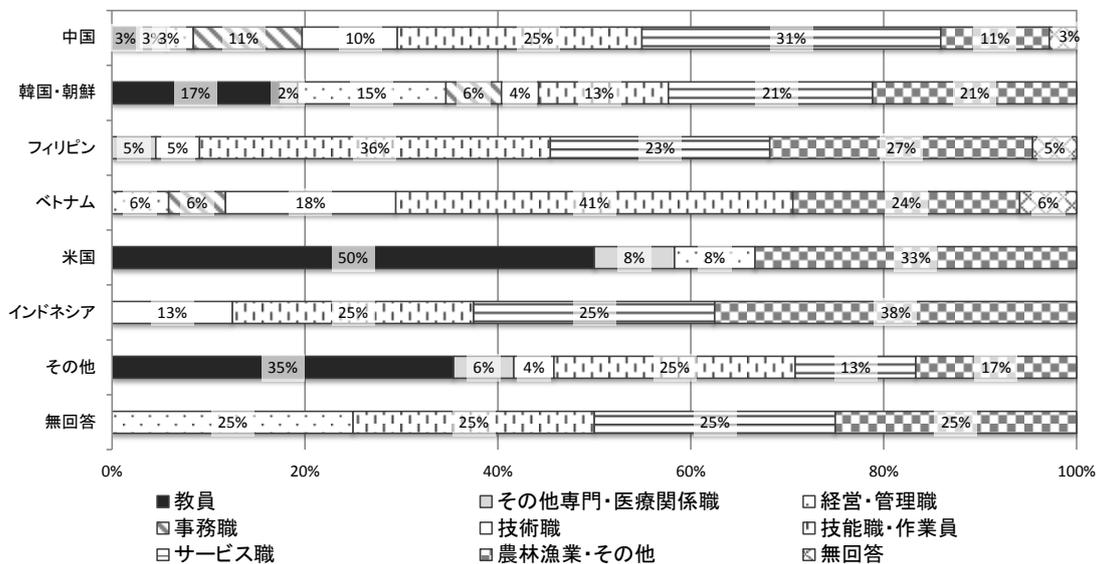


図32-2 国籍別職業の分布 (N=234)

### (33) 現在の仕事の見つけ方

仕事の見つけ方の分布を見ると、その他を除くと家族の紹介で仕事を見つけた人が最も多く 14.6%を占めている。次いで新聞・求人誌・チラシが 12.4%、職業安定所の紹介が 12.0%、日本人の友人・知人の紹介が 11.6%となっている。

問 33 あなたは現在の仕事をどのようにして見つけましたか

表 33 現在の仕事の見つけ方

	N	%
家族の紹介(親の仕事を手伝ったり、家族の仕事を手伝っている場合も含む)	34	14.6%
新聞・求人誌・チラシなど	29	12.4%
職業安定所(ハローワーク)の紹介	28	12.0%
母国出身の友人・知人の紹介	24	10.3%
日本人の友人・知人の紹介	27	11.6%
自分で設立	17	7.3%
仕事の紹介する民間会社の紹介	18	7.7%
学校の紹介	12	5.2%
その他	38	16.3%
無回答	6	2.6%
計	233	100%

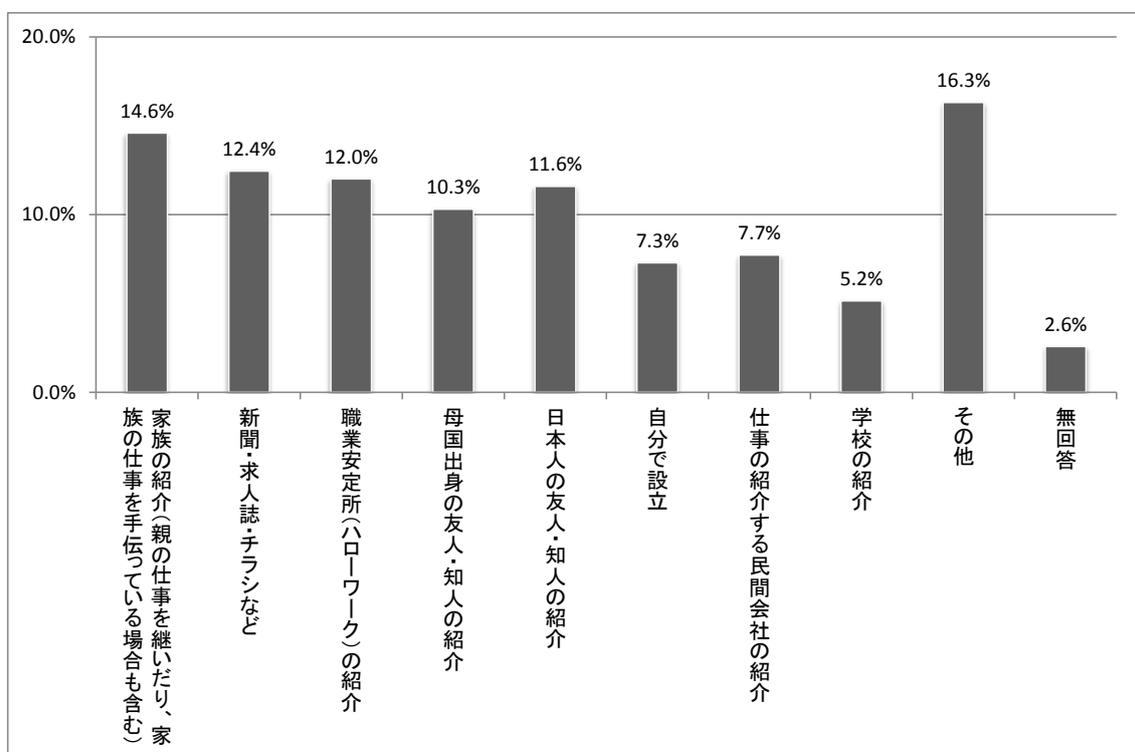


図 33 現在の仕事の見つけ方

日本人との付き合いの程度別に仕事の見つけ方の分布を見ると、なんでも話せる人がいると回答した人では家族の紹介の割合が最も高く16%となったが、新聞・求人誌・チラシなどが14%、日本人の友人・知人の紹介が13%、職業安定所の紹介が12%などと回答が幅広く分散した。立ち話をする人がいると回答した人では新聞・求人誌・チラシなどが14%と最も高く、家族の紹介が13%、職業安定所の紹介が13%、母国出身の友人・知人の紹介が11%などと回答が分散している。あいさつをする人がいる・まったくいないでは自分で設立が25%と最も高く、民間会社の紹介が20%となるなど、他の付き合いの程度とは傾向が異なっている。

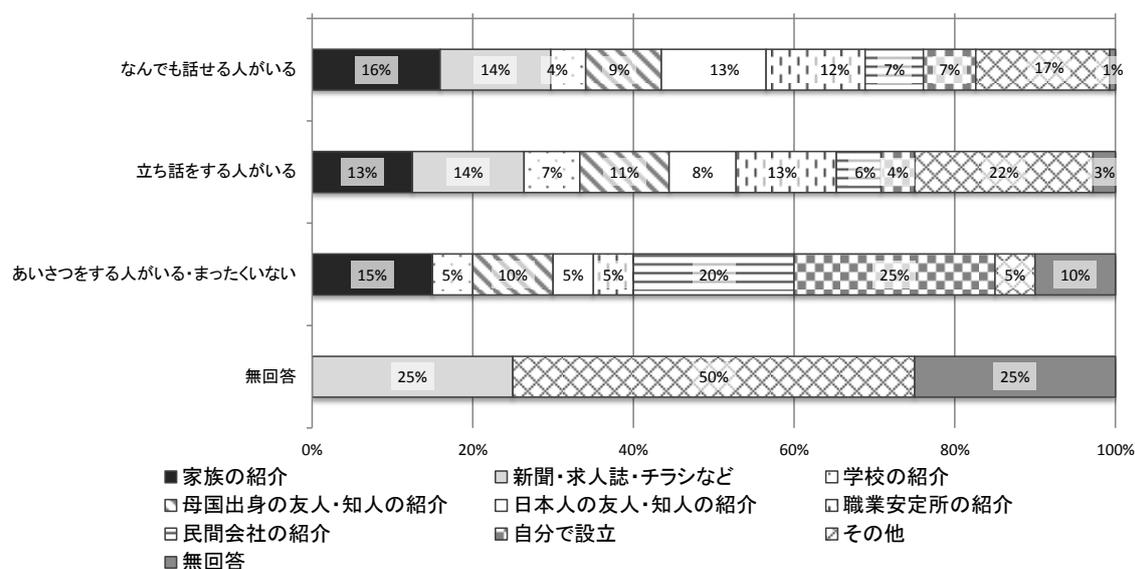


図33-2 日本人との付き合い別仕事の見つけ方の分布(N=234)

### (34) 仕事上の困りごと・不満

仕事の不満について見ると、「とくにない」と回答した人が47.0%と最も多い。不満がある人の中では、「給料が安い」が29.95%、「外国人として差別的な扱いを受けているように感じる」が10.7%、「希望する職種、業種ではない」が10.3%となっている。

問 34 仕事で困っていることや不満はありますか（複数回答）

表 34 仕事上の困りごと・不満

	N	%
給料が安い	70	29.9%
外国人として差別的な扱いを受けているように感じる	25	10.7%
希望する職種、業種ではない	24	10.3%
労働時間が長い	20	8.5%
正職員になれない、又は昇格できない	18	7.7%
日本人とお互いの考えを理解しあえない	16	6.8%
いつ解雇されるか不安がある	16	6.8%
雇用期間が短い	14	6.0%
上司や同僚との人間関係がうまくいっていない	10	4.3%
その他	16	6.8%
とくにない	110	47.0%
無回答	7	3.0%
計	234	100%

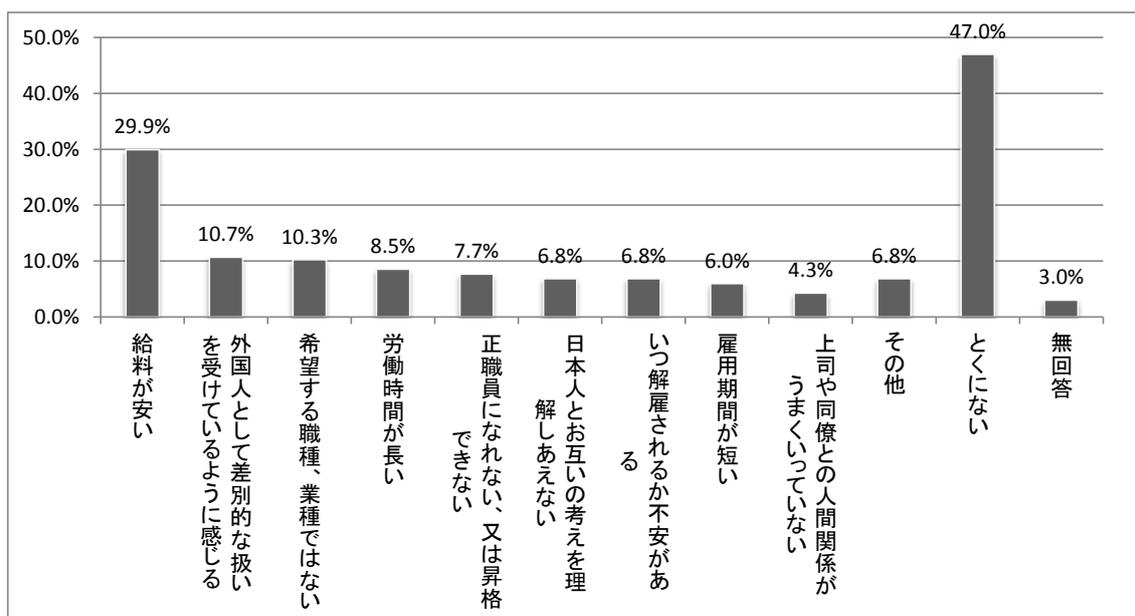


図 34 仕事上の困りごと・不満

日本語能力の程度別に仕事の不満を見ると、日本語を話す・聞く能力を問わずとくにないの回答が最も多くなった。2番目の給料が安いも日本語を話す・聞く能力を問わず挙げられている。一方、日本語を話す・聞く能力が高い人では他の回答が10%未満となったのに対し、日本語を話す・聞く能力が中程度の人では差別的な扱いと23%が回答したほか、解雇が不安、正職員になれないが18%となった。また、日本語を話す・聞く能力が低い人では希望職種、業種ではないが25%を占めたほか、雇用期間が短い、考えを理解しあえない、差別的な扱いが20%となった。

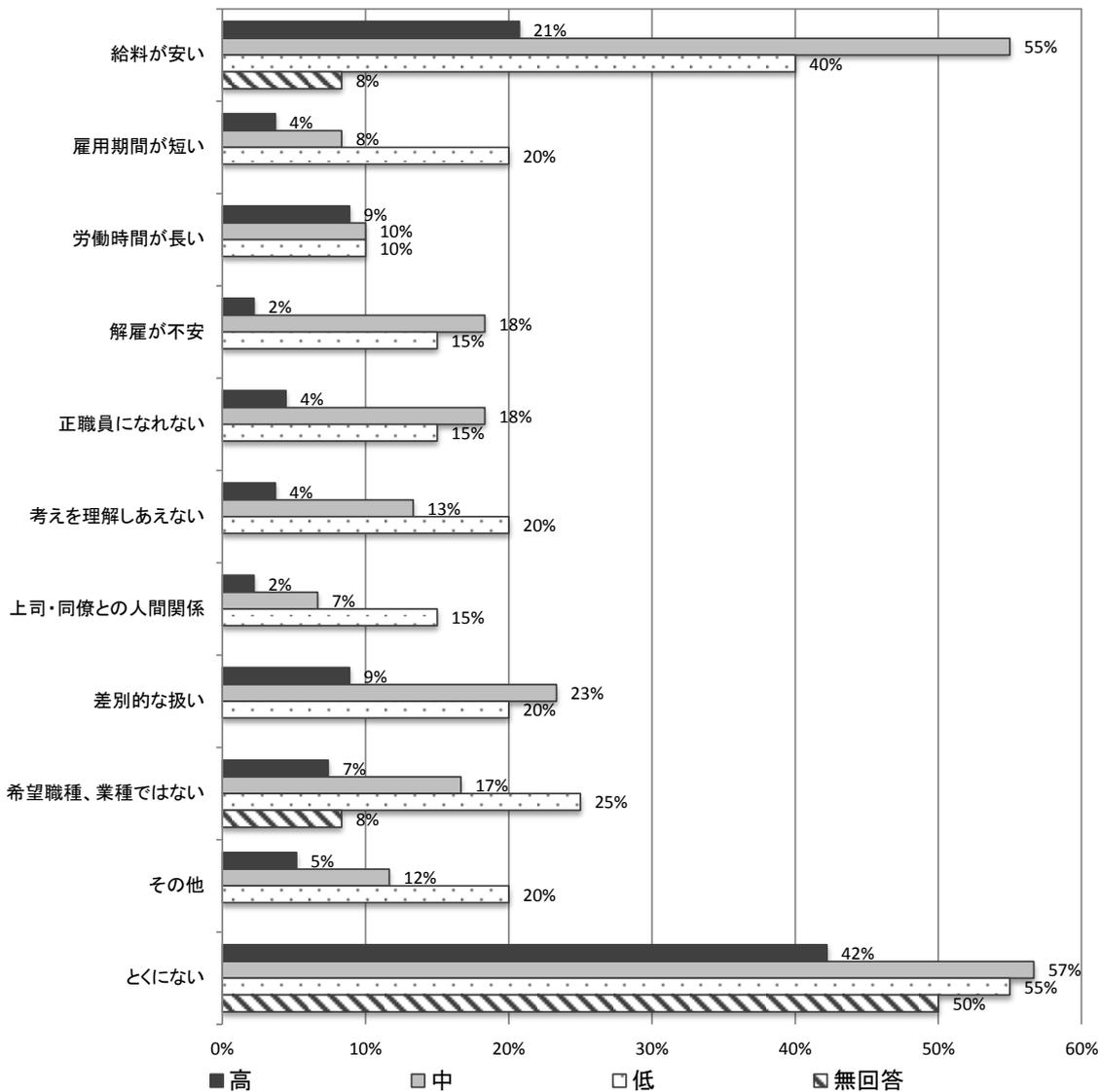


図34-2 日本語能力(話す・聞く)別仕事の不満の分布(N=227、問34に無回答の回答者を除いた割合)

日本語を読む能力別の仕事の不満の分布を見ると、日本語を読む能力が高い人と中程度の人ではとくにないの回答が最も多くなったのに対し、日本語を読む能力が低い人では給料が安い回答が最も多くなった。また、日本語を読む能力が低い人では解雇が不安が30%、考えを理解しあえないが20%と日本語を読む能力が高い人、中程度の人と比較して割合が高い。一方、差別的な扱いや希望業種、職種ではないは日本語を読む能力の高低を問わずおよそ10%程が回答している。

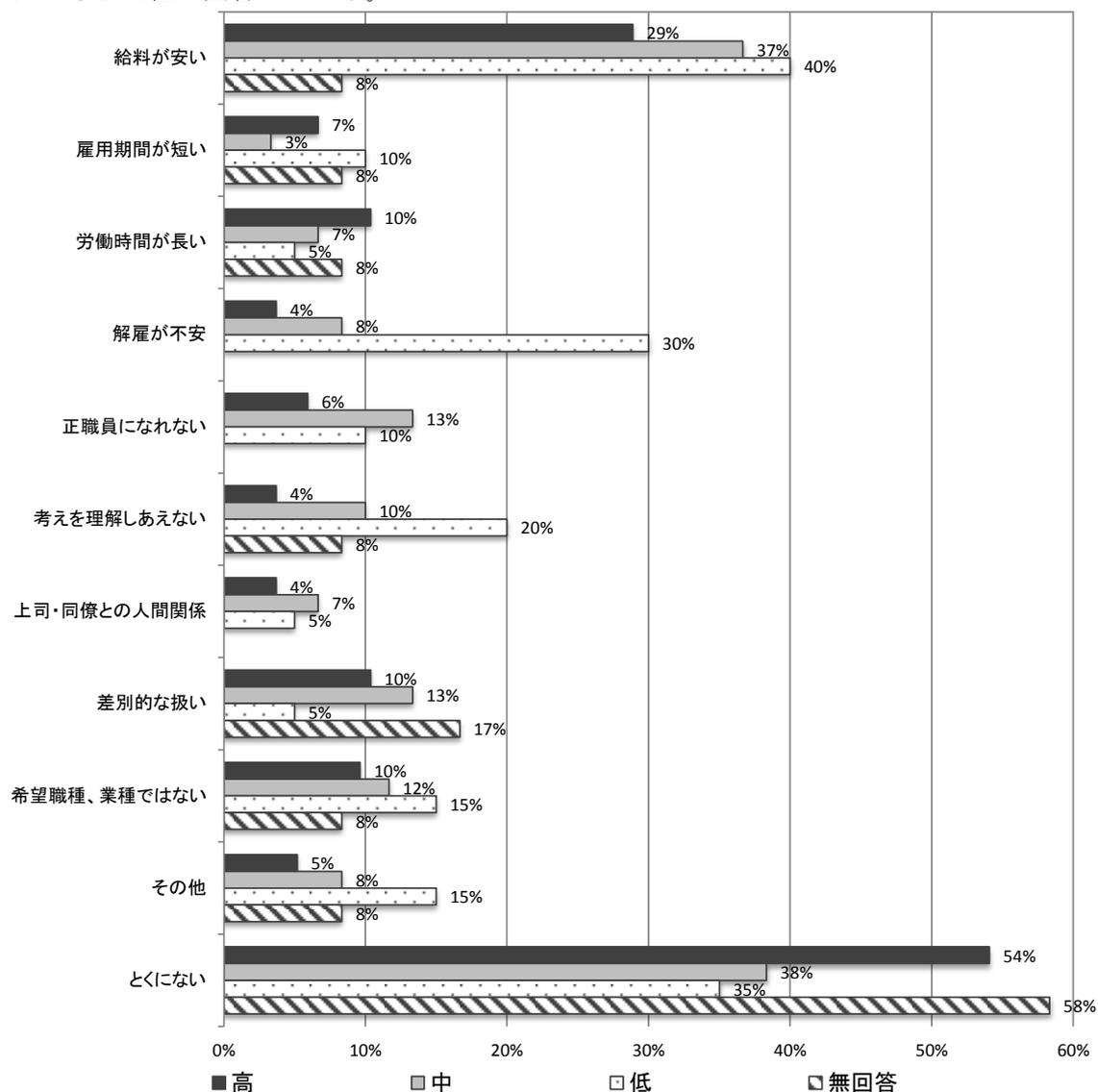


図34-3 日本語能力(話す・聞く)別仕事の不満の分布(N=227、問34に無回答の回答者を除いた割合)

### (35) 今後の勤務地

今後の勤務地についての希望の分布を見ると、53.0%の人が宮城県での就労を希望しており、次いで「わからない」が19.9%、「日本で働きたいが、宮城県以外で働きたい」が9.7%、「母国に帰って働きたい」が7.2%となっている。

問 35 あなたは今後、宮城県または日本で働こうと思っ  
ていますか

表 35 今後の勤務地

	N	%
宮城県で働きたい	170	53.0%
日本で働きたいが、宮城県以外で働きたい	31	9.7%
母国に帰って働きたい	23	7.2%
日本と母国以外の国で働きたい	3	0.9%
その他	17	5.3%
わからない	64	19.9%
無回答	13	4.0%
計	321	100%

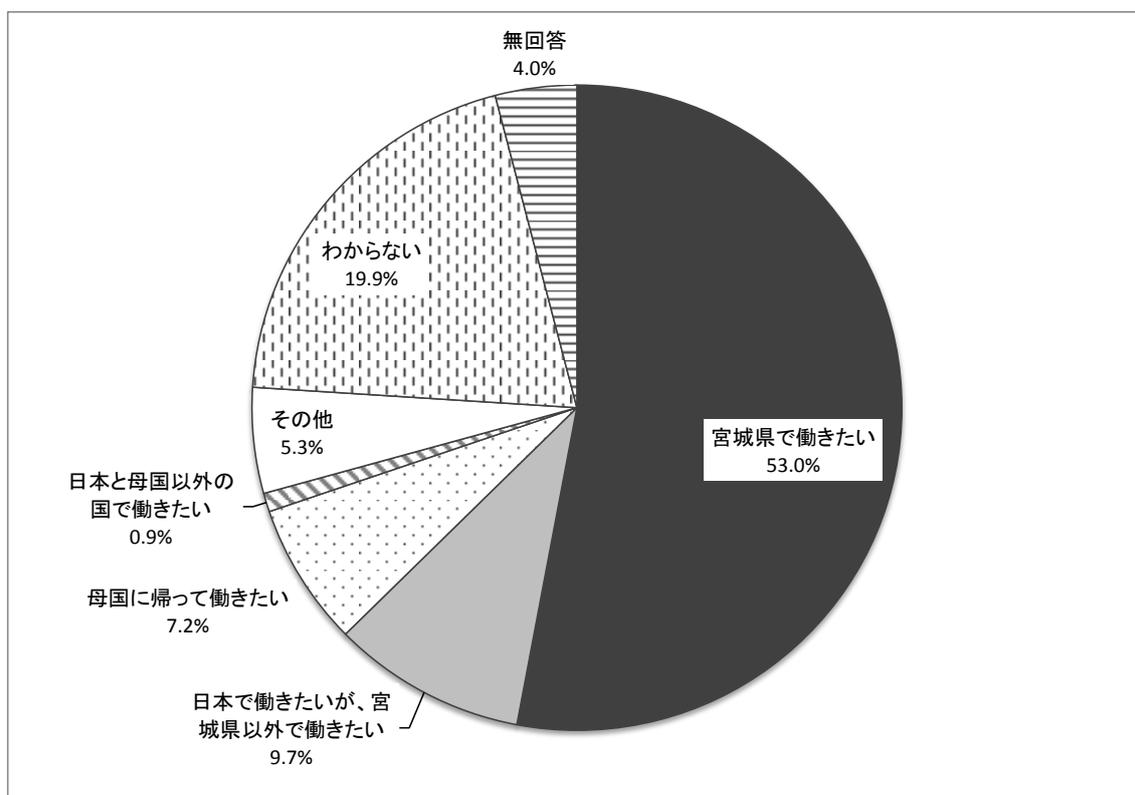


図 35 今後の勤務地

在留資格別の今後の勤務地の希望の分布を見ると、宮城県で働きたいと回答したのは永住者、日本人の配偶者、定住者で70%を超えている。教育では宮城県以外で働きたいが43%を占めている。技能実習では母国で働きたいが44%と他の在留資格と比較して割合が高い。技術・人文知識・国際業務と家族滞在では40%以上がわからないと回答している。

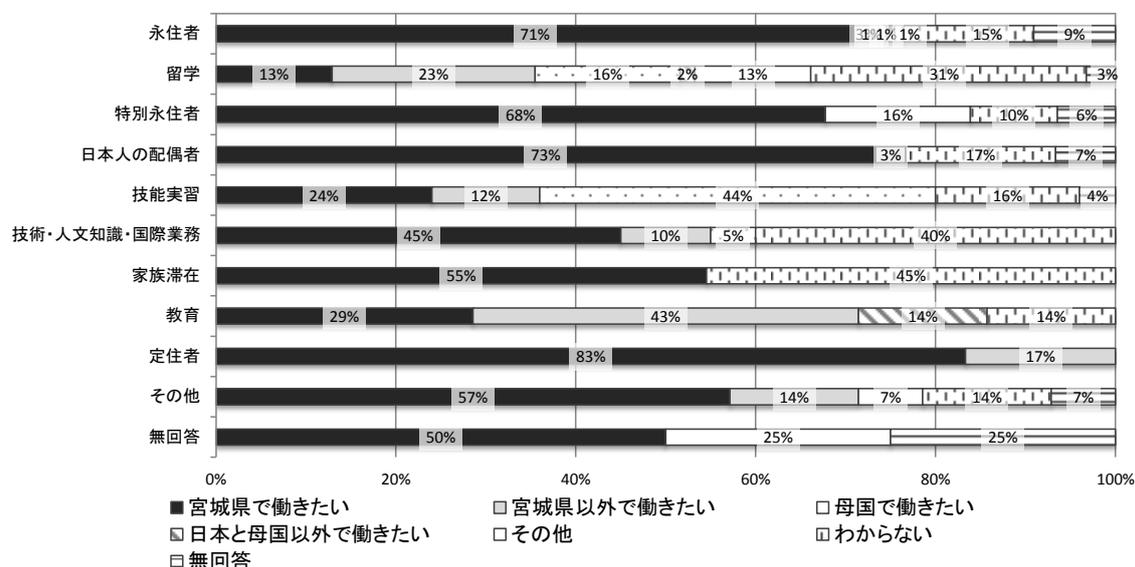


図35-2 在留資格別今後の勤務地の分布(N=334)

日本人との付き合いの程度別に今後の勤務地の希望の分布を見ると、なんでも話せる人がいると回答した人では57%が宮城県で働きたいとした。対して、あいさつをする人がいる・まったくいないでは宮城県で働きたいが46%と割合が低くなった。また、宮城県以外で働きたいと回答したのはなんでも話せる人がいるでは8%であったのに対し、あいさつをする人がいる・まったくいないでは14%と割合が高くなっている。

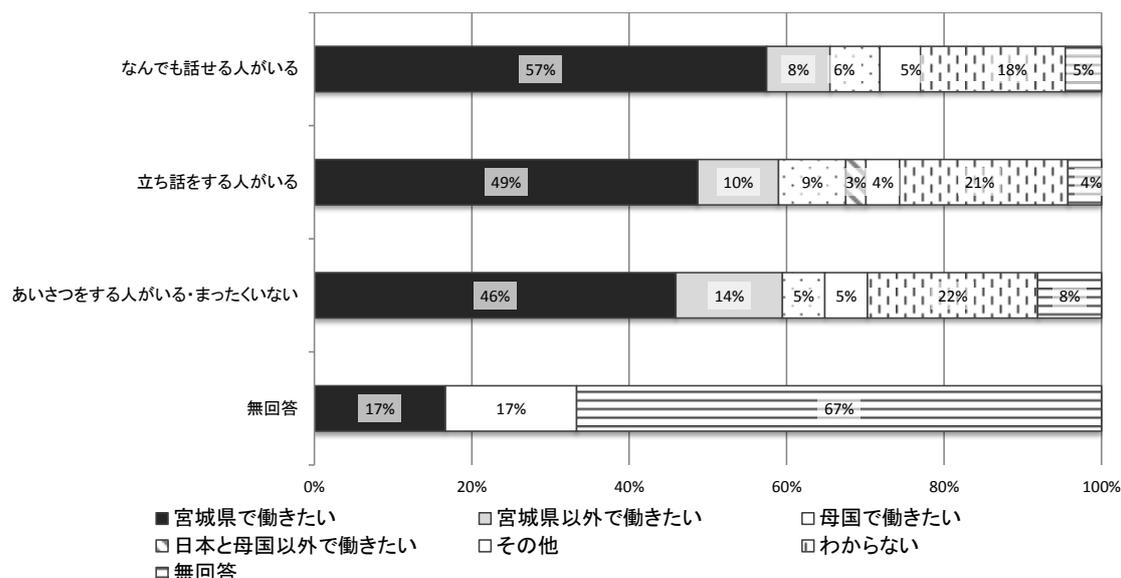


図35-3 日本人との付き合い別今後の勤務地の分布(N=334)

### (36) 仕事を探していない理由

仕事を探していない理由で最も多いのは「生活していく上で必要がないから」であり、全体の 21.0%を占めている。次いで「就職できないから」が 16.1%と比較的高くなっている。

#### 問 36 仕事を探していない理由は何ですか

(問 31 で「無職 (1~6 以外で仕事を探していない)」と選択した人)

表 36-1 仕事を探していない理由

	N	%
就職できないから	10	16.1%
生活していく上で必要がないから	13	21.0%
働く意欲がわからないから	3	4.8%
人間関係がよくないから	0	0.0%
その他	32	51.6%
無回答	4	6.5%
計	62	100%

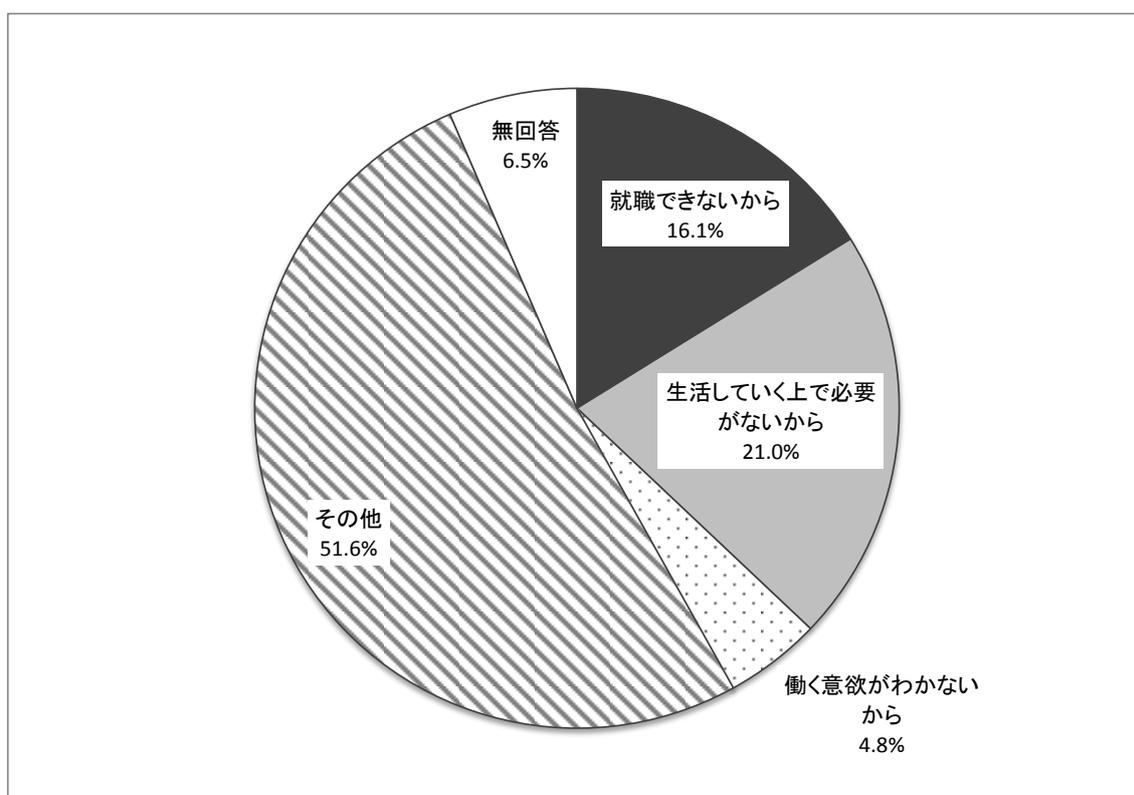


図 36-1 仕事を探していない理由

また、「就職ができないから」を選んだ人がなぜ就職できないと考えているかの分布を見ると、%の人が「日本語がうまく話せないから」と回答しており、「探しても希望する就職先が見つからないから」、「外国人を雇用する企業が少ないから」が%となっている。

表 36-2 就職できない理由

	N	%
日本語がうまく話せないから	7	70.0%
探しても希望する就職先が見つからないから	2	20.0%
外国人を雇用する企業が少ないから	1	10.0%
無回答	0	0.0%
計	10	43%

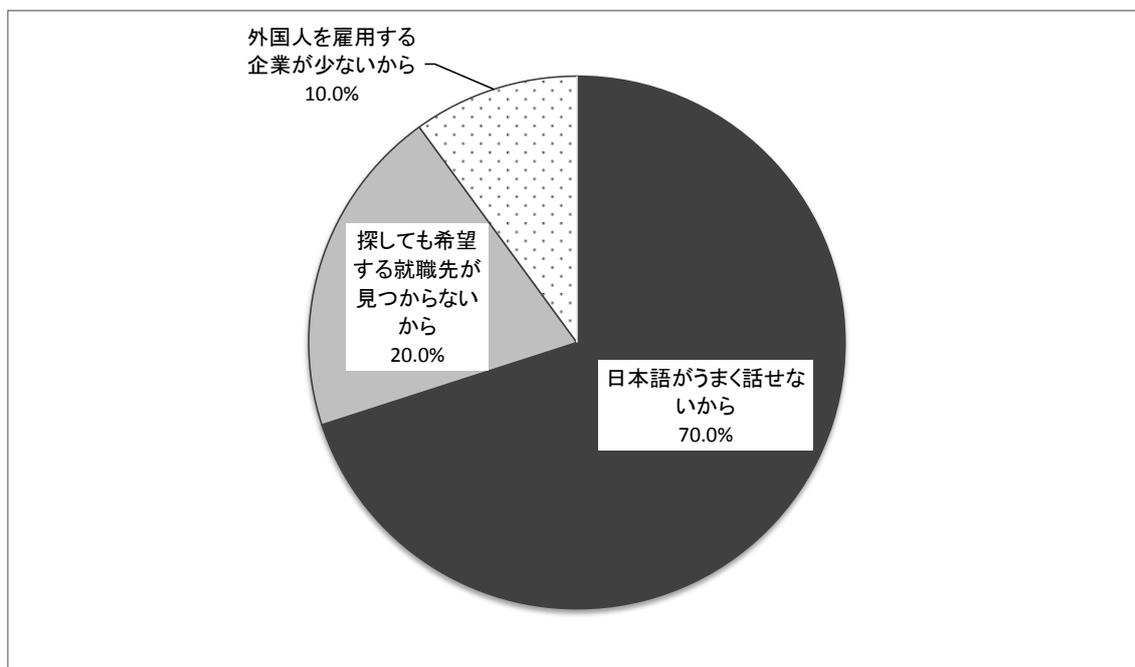


図 36-2 就職できない理由

日本語を話す・聞く能力別に仕事を探していない理由の分布を見ると、日本語を話す・聞く能力が高い人では生活していく上で必要がないからが32%と最も割合が高い。これに対し日本語を話す・聞く能力が中程度の人では働く意欲がわからないからが14%となったほか、日本語を話す・聞く能力が低い人では就職できないからが13%となっている。

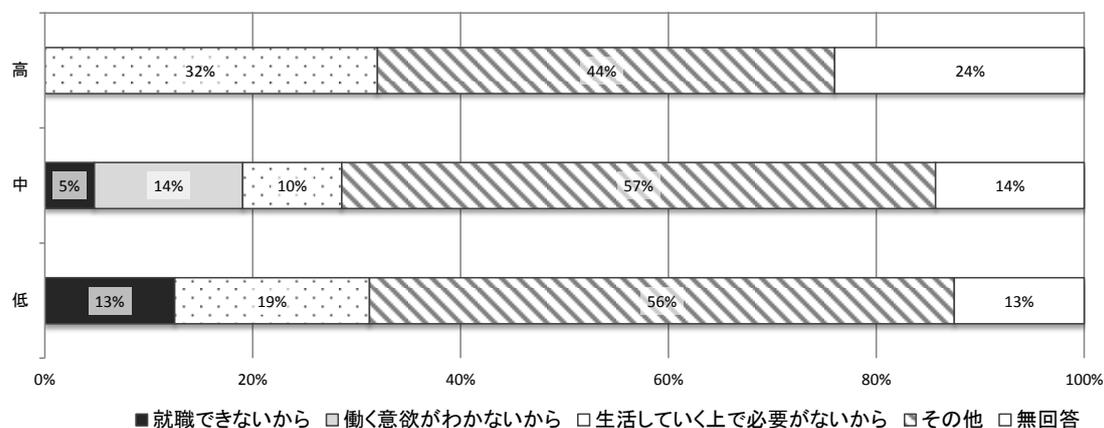


図36-3 日本語能力(話す・聞く)別仕事を探していない理由の分布(N=62)

居住形態別に仕事を探していない理由の分布を見ると、ひとり暮らしでは働く意欲がわからないからと生活していく上で必要がないからが20%となった。配偶者のみでは就職できないからと生活していく上で必要がないからが16%となった。子どもあり、その他家族同居、その他の人と同居では生活していく上で必要がないからの割合が最も高くなっている。

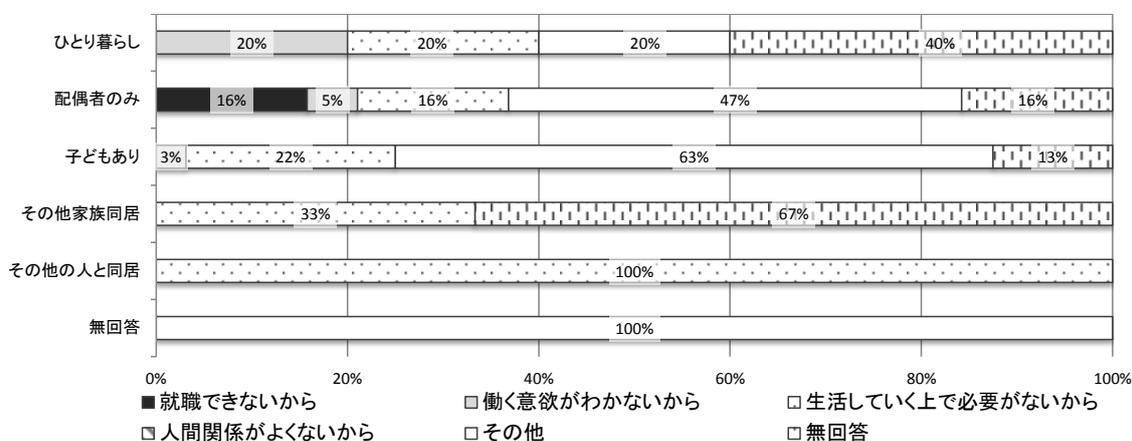


図36-4 居住形態別仕事を探していない理由の分布(N=62)

## 9 社会生活一般

### (37) 日本人との付き合い

日本人との付き合いの分布を見ると、職場では 25.0%が「何でも話し合える人がいる」、24.5%が「たまに立ち話をする人ならいる」と回答しており、「まったくいない」は 4.3%となっている。学校では 8.3%が「なんでも話し合える人がいる」、12.9%が「たまに立ち話をする人ならいる」と回答しており、「まったくいない」は 3.3%と低くなっている。地域では 27.8%が「あいさつをする程度の人しかいない」、22.7%が「たまに立ち話をする人ならいる」と回答している一方、「まったくいない」は 15.9%となっている。その他の付き合いについて見ると、28.8%が「何でも話し合える人がいる」、21.2%が「たまに立ち話をする人がいる」を選択しており、「まったくいない」は 18.4%となっている。

問 37 現在、あなたには、仲良くしている日本人はいますか

表 37 日本人との付き合い

	職場		学校		地域		その他	
	N	%	N	%	N	%	N	%
何でも話し合える人がいる	99	25.0%	33	8.3%	80	20.2%	114	28.8%
たまに立ち話をする人ならいる	97	24.5%	51	12.9%	90	22.7%	84	21.2%
あいさつをする程度の人しかいない	29	7.3%	17	4.3%	110	27.8%	35	8.8%
まったくいない	17	4.3%	13	3.3%	63	15.9%	73	18.4%
働いていない・学校に行っていない	74	18.7%	123	31.1%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	80	20.2%	159	40.2%	53	13.4%	90	22.7%
計	396	100%	396	100%	396	100%	396	100%

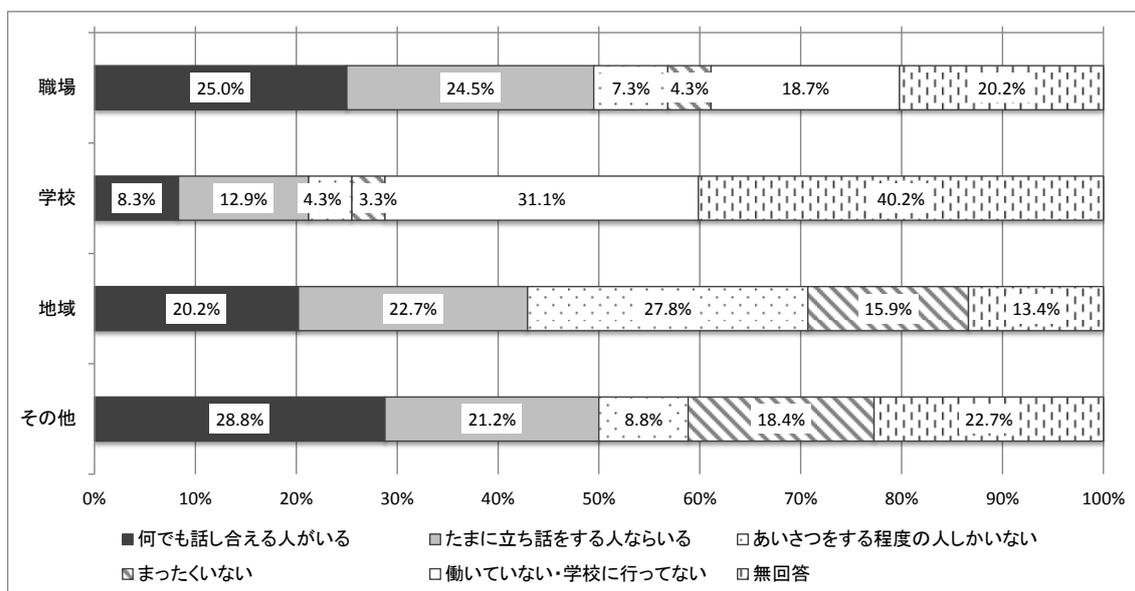


図 37-1 日本人との付き合い

職場，学校，近所，その他のどこか一つの場所で「何でも話しあえる人がいる」人，どこか一つの場所で「たまに立ち話をする人ならいる」人，すべての場所で「あいさつをする程度の人しかいない」人，すべての場所で「まったくいない」人に回答者を分けて分布を見ると，なんでも話せる人がいると回答した人が 51.5%を占めた。次いで立ち話をする人がいるが 34.1%となっており，まったくいないと回答した人の割合は 4.3%となった。

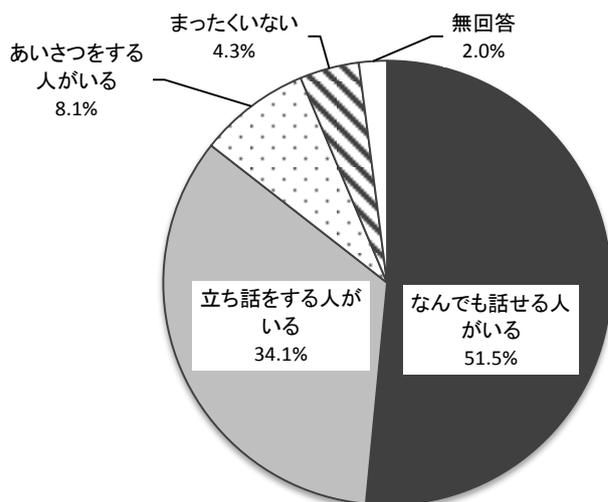


図37-2 日本人との付き合い(総合)の分布(N=396)

### (38) 相談相手

困ったときの相談相手の分布を見ると、いずれの内容においても、母国出身の友人・知人と日本人の友人・知人をあげる割合が他と比較して著しく高い。

人間関係については60%近くの人が母国出身の友人・知人を相談相手としてあげており、最も割合が高くなっている。家族・生活や仕事・学業においても、母国出身の友人・知人をあげる割合が最も高い。文化・習慣については日本人の友人・知人を相談相手と答える割合が最も多く、50%を超えている。

一方、「近所の人」、「日本語教室の関係者」、「民間の相談所やボランティア団体」、「市役所、町村役場、県庁などの窓口」、「市町村国際交流会や宮城県国際化協会」、「その他」と回答した割合はいずれも10%未満にとどまっている。

なお、すべての内容において、「自分で解決するので、相談しない」が20%前後、「相談する相手がいない」が4%程度となっている。

問38 あなたには、次のようなことで悩んだり困ったりした場合、家族や親戚以外で、  
誰にまたはどこに相談しようと思いますか（複数回答）

表38 相談相手

	A人間関係		B文化・習慣		C家族・生活		D仕事・学業	
	N	%	N	%	N	%	N	%
母国出身の友人・知人	231	58.3%	183	46.2%	211	53.3%	189	47.7%
近所の人	20	5.1%	34	8.6%	25	6.3%	15	3.8%
日本人の友人・知人	155	39.1%	201	50.8%	141	35.6%	183	46.2%
母国出身者や日本人以外の友人・知人	40	10.1%	41	10.4%	32	8.1%	40	10.1%
日本語教室の関係者	19	4.8%	22	5.6%	11	2.8%	20	5.1%
民間の相談所やボランティア団体	4	1.0%	4	1.0%	2	0.5%	4	1.0%
市役所、町村役場、県庁などの窓口	15	3.8%	19	4.8%	18	4.5%	14	3.5%
市町村国際交流会や宮城県国際化協会	5	1.3%	9	2.3%	3	0.8%	9	2.3%
その他	21	5.3%	22	5.6%	19	4.8%	24	6.1%
自分で解決するので、相談しない	82	20.7%	63	15.9%	92	23.2%	73	18.4%
相談する相手がいない	15	3.8%	15	3.8%	16	4.0%	13	3.3%
無回答	16	4.0%	21	5.3%	23	5.8%	37	9.3%
計	396	100%	396	100%	396	100%	396	100%

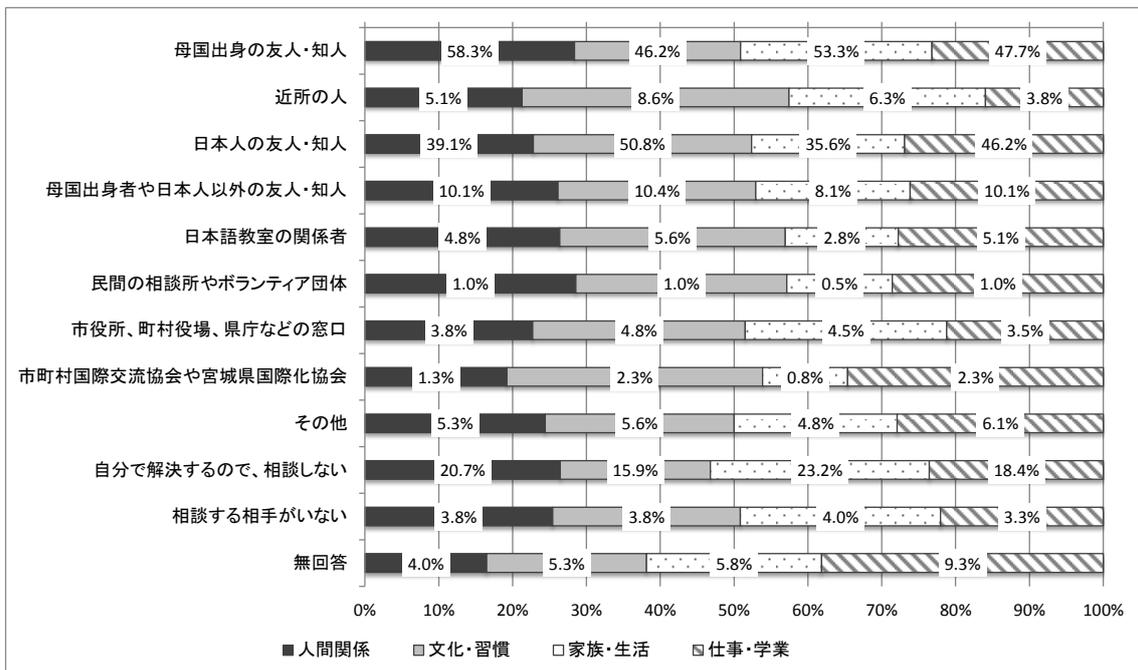


図 38-1 相談相手

日本人との付き合いの程度別に相談先の分布をみると、すべての内容について、日本人（日本人の友人・知人、近所の人）、制度・団体（日本語教室の関係者、民間相談所・ボランティア団体、市役所等の窓口、市町村国際交流協会等）を相談先とする割合、また、相談する相手がないとする割合に差がみられた。日本人に何でも話せる人がいると回答した人では、すべての内容についておよそ 60%以上が日本人の友人・知人または近所の人を相談相手としている。これに対してあいさつをする人がいる・まったくいないと回答した人では母国出身の友人・知人がすべての内容についておよそ 60%以上を占めており、生活・習慣の 27%を除くと日本人の友人・知人または近所の人を相談相手としているのは 20%未満となっている。立ち話をする人がいると回答した人では生活・習慣でのみ日本人の友人・知人または近所の人を相談相手としている割合が最も多くなった。

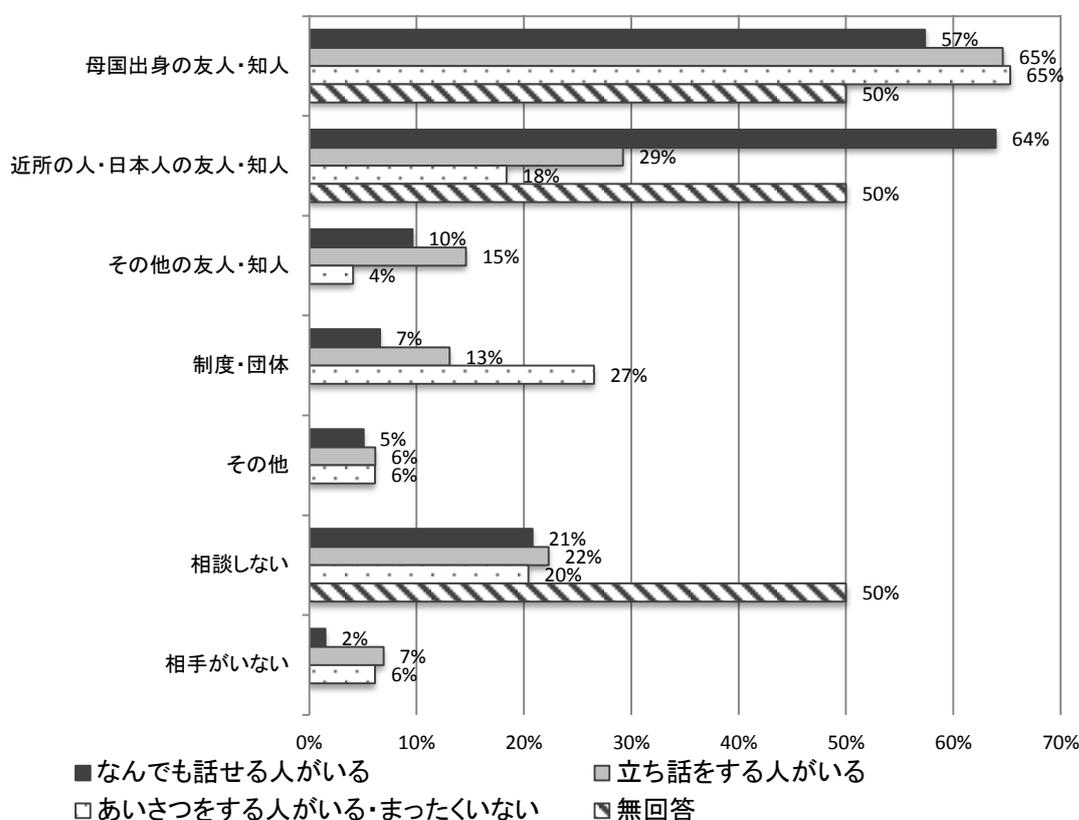


図38-2 日本人との付き合い別相談先(人間関係)(N=380、問38Aに無回答の回答者を除いた割合)

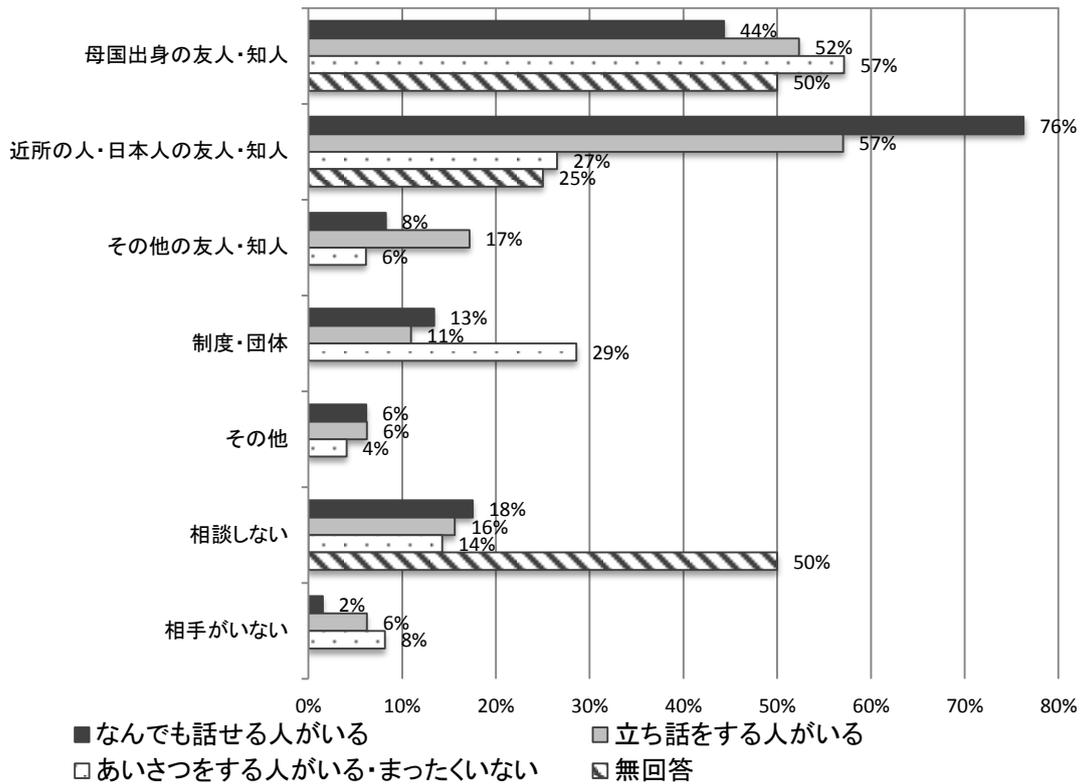


図38-3 日本人との付き合い別相談先(文化・習慣)(N=375、問38Bに無回答の回答者を除いた割合)

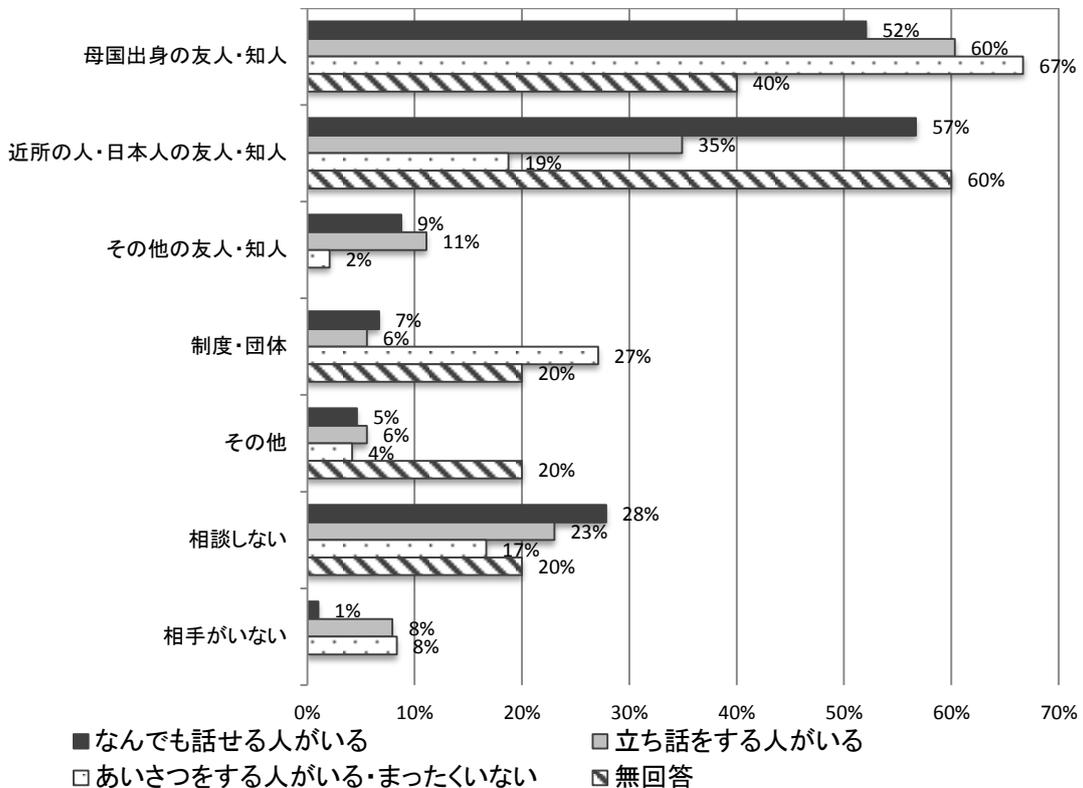


図38-4 日本人との付き合い別相談先(家族・生活)(N=373、問38Cに無回答の回答者を除いた割合)

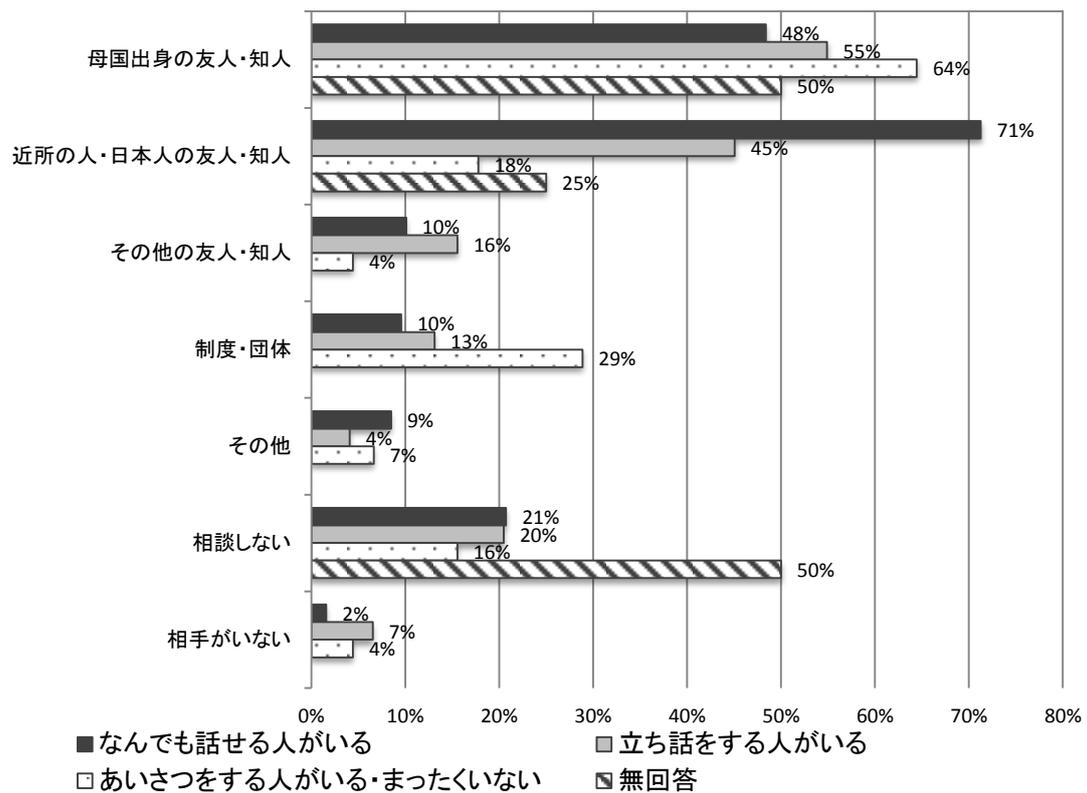


図38-5 日本人との付き合い別相談先(仕事・学業)(N=359、問38Dに無回答の回答者を除いた割合)

### (39) 日本人との交流希望

今後の日本人との交流希望については、「日本の文化や習慣を学びたい」の割合が最も多く、45.7%が選択している。次いで「地域の行事にもっと参加したい」が37.6%、「いっしょにボランティア活動などの社会活動をしたい」が31.1%、「日本人に母国の文化を紹介したい」が25.5%となっている。一方で、「とくに交流したいとは思わない」と回答した割合が16.7%と一定数存在する。

問 39 あなたは今後、地域の日本人とどのような交流をしたいと思いますか（複数回答）

表 39 日本人との交流希望

	N	%
日本の文化や習慣を学びたい	181	45.7%
地域の行事にもっと参加したい	149	37.6%
いっしょにボランティア活動などの社会活動をしたい	123	31.1%
日本人に母国の文化を紹介したい	101	25.5%
いっしょに食事や買い物に行きたい	98	24.7%
家庭のことや子育てなどについて話し合いたい	81	20.5%
その他	13	3.3%
とくに交流したいとは思わない	66	16.7%
無回答	19	4.8%
計	396	100%

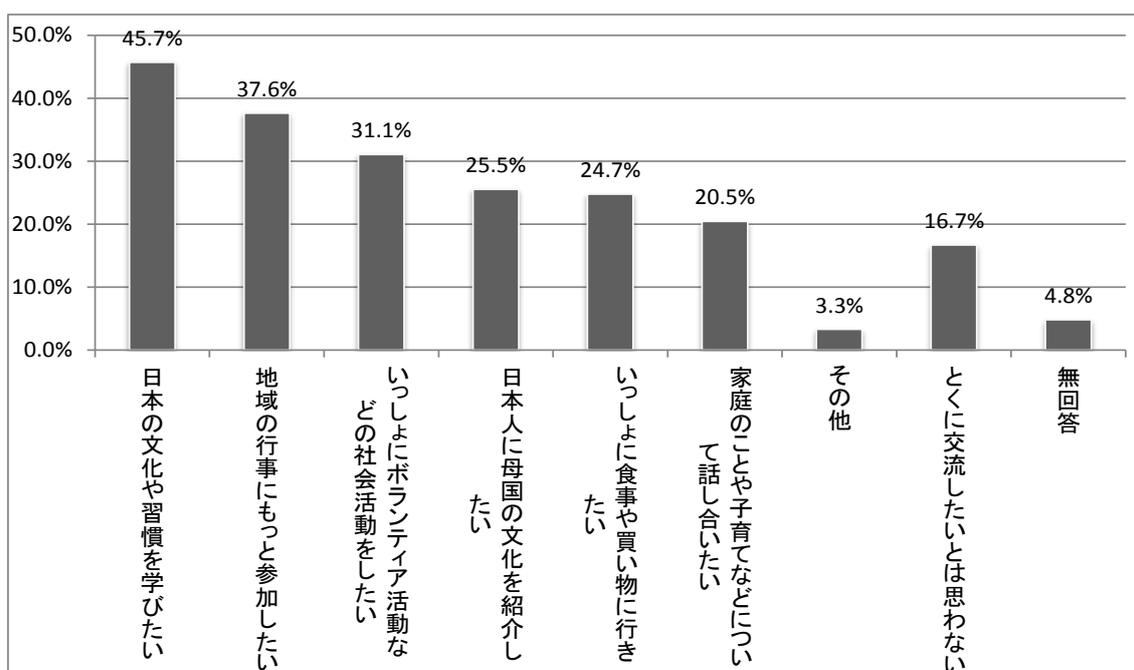


図 39 日本人との交流希望

#### (40) 差別経験

外国人だということできいやな経験やつらい思いをしたことがあるかについては、「よくある」が7.1%、「時々ある」が31.3%であり、合わせて40%程度の人は何らかの差別経験がある。一方で、「まったくない」または「ほとんどない」と回答する割合も合計で40%程度であり、いやな経験・つらい思いをしている人とあまり感じていない人が同程度となっている。また、「過去に経験したが今はない」と回答した割合は19.7%となっている。

問 40 あなたは生活上、外国人だということできいやな経験やつらい思いをした(している)ことがありますか

表 40 差別経験

	N	%
よくある	28	7.1%
時々ある	124	31.3%
ほとんどない	94	23.7%
まったくない	63	15.9%
過去に経験したことがあるが、今はほとんどない・まったくない	78	19.7%
無回答	9	2.3%
計	396	100%

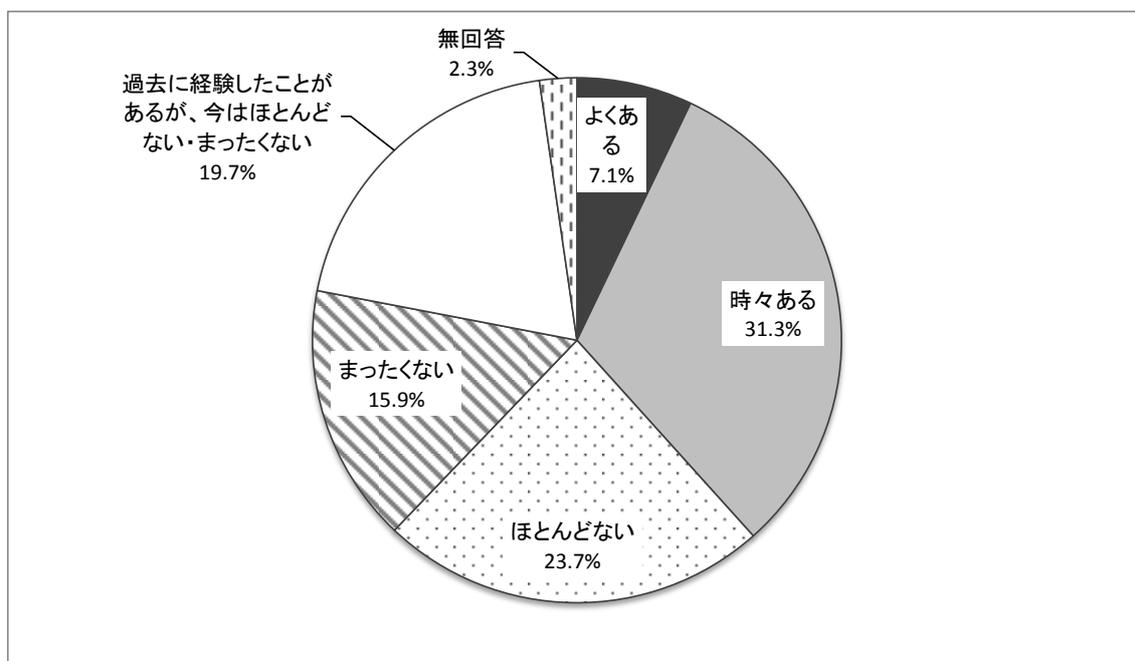


図 40 差別経験

国籍別に差別経験の分布を見ると、よくある、時々あると回答した割合はベトナム籍で52%と最も高く、中国籍、インドネシア籍でも40%を超えている。対して、米国籍では46%がほとんどないと回答したほか、フィリピン籍、インドネシア籍では31%がまったくないとしている。韓国・朝鮮籍では31%が過去に経験したが今はないと回答している。

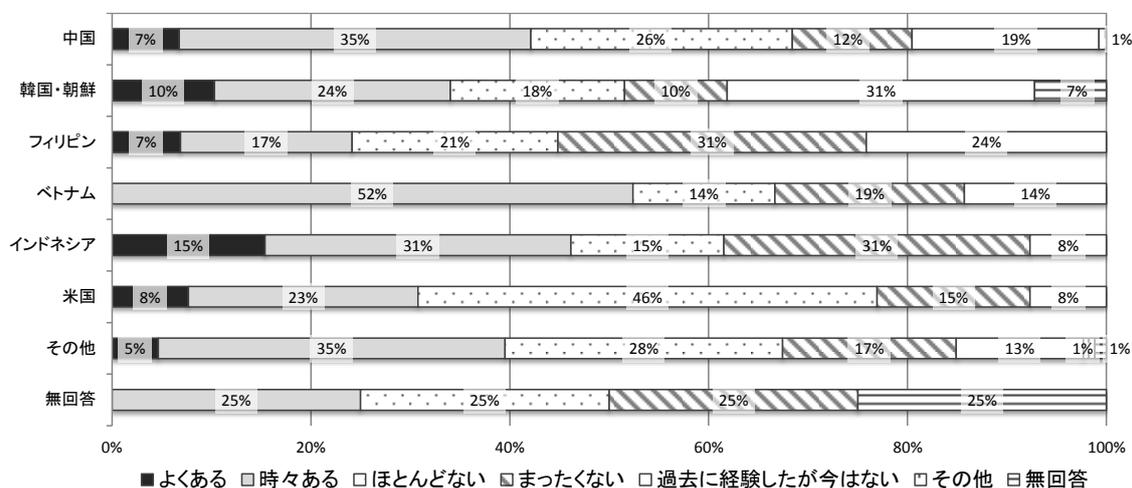


図40-2 国籍別差別経験の分布(N=396)

在留資格別に差別経験の分布を見ると、よくある、時々あると回答した割合は教育で最も多く71%を占めたほか、定住者で67%に達し、留学、特別永住者、技術・人文知識・国際業務で40%を超えている。一方のほとんどないは日本人の配偶者で43%、まったくないは技能実習で28%となっている。また、特別永住者では34%が過去に経験したが今はないと回答している。

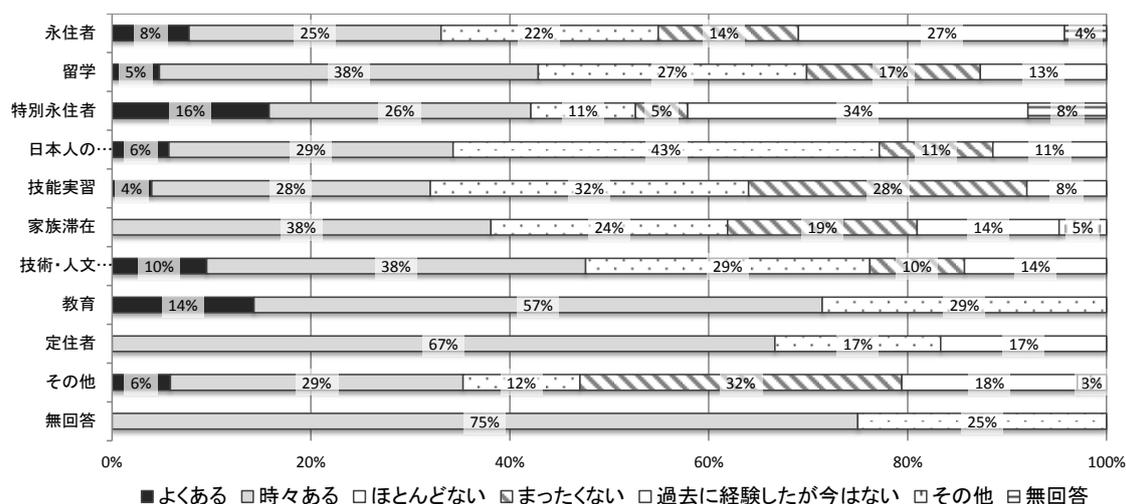


図40-3 在留資格別差別経験の分布(N=396)

#### (41) いやな経験、つらい思いの具体的内容

いやな経験やつらい思いの具体的な内容を見ると、「工作中」をあげる割合が42.2%と最も多く、次いで「住まいを探すとき」が28.3%、「仕事を探すとき」および「公的機関などでの手続のとき」が各27.4%となっている。

問41 それほどのようなときに感じましたか（複数回答）

（問40で「よくある」「時々ある」「過去に経験したことがあるが、今はほとんどない・まったくない」と回答した人）

表41 いやな経験・つらい思いの具体的内容

	N	%
工作中	97	42.2%
住まいを探すとき	65	28.3%
仕事を探すとき	63	27.4%
公的機関などでの手続のとき	63	27.4%
日本人の友人との交際のとき	53	23.0%
買い物や食事をしているとき	46	20.0%
近所との付き合いの中で	46	20.0%
テレビ・インターネットなどのメディアの情報で	37	16.1%
移動しているとき	27	11.7%
子どもが学校などで	19	8.3%
その他	22	9.6%
無回答	8	3.5%
計	230	100%

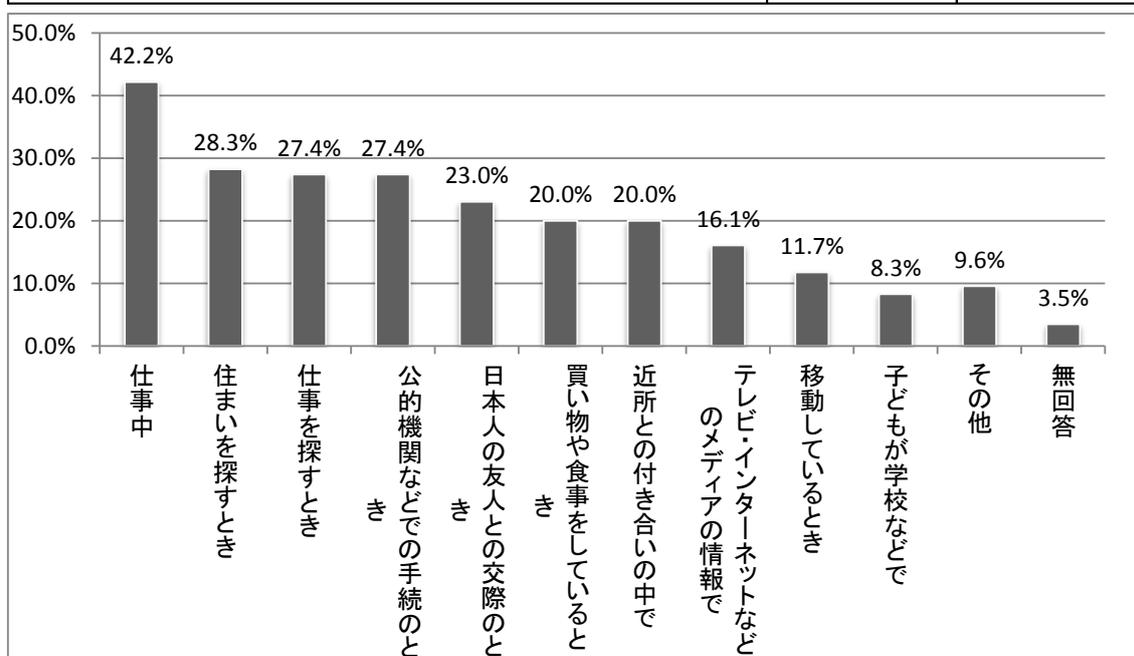


図41 いやな経験・つらい思いの具体的内容

#### (42) 現在困っていること

現在生活上で最も困っていることについては、「日本語の理解」が最も多くの人からあげられており、25.2%の回答者が選択している。次いで、「生活費用」が23.2%、「子育て・教育」および「老後の生活」が各17.2%となっている。一方、24.0%の回答者が「とくになし」と回答している。

問 42 あなたが生活している上で、現在最も困っていることは何ですか (3つまで)

表 42 現在困っていること

	N	%
日本語の理解	101	25.5%
生活費用	92	23.2%
子育て・教育	68	17.2%
老後の生活	68	17.2%
病気・けが	52	13.1%
就職	43	10.9%
仕事	41	10.4%
友人・知人や近所の人との人間関係	32	8.1%
住宅	27	6.8%
家族の介護	14	3.5%
家族との人間関係	13	3.3%
家族に関する問題(1、8～10を除く)	12	3.0%
その他	18	4.5%
とくになし	95	24.0%
無回答	28	7.1%
計	396	100%

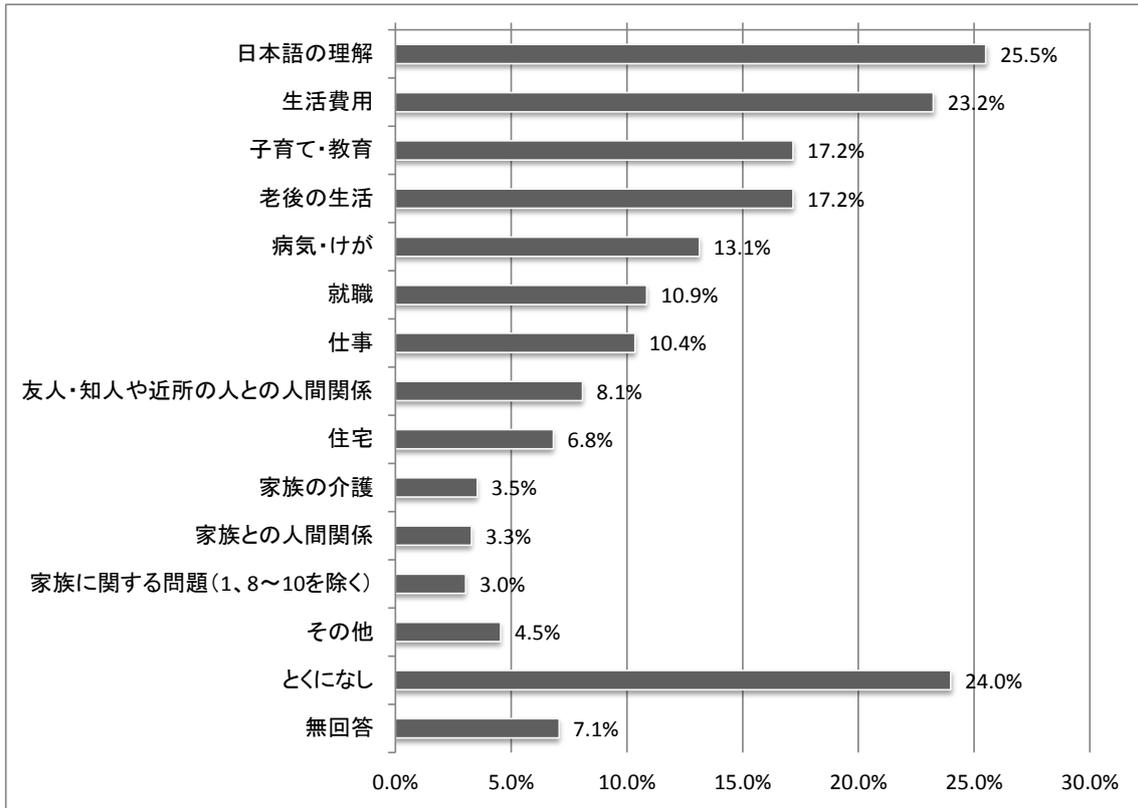


図 42 現在困っていること

### (43) 社会活動

社会活動への参加および参加意向について見ると、「母国語や母国文化を生かせる交流活動」と「自分の仕事や学業を生かせる交流活動」は「する予定なし」割合が最も高く、「特技や趣味を生かせる文化・スポーツ活動」、「住民として地域のために役立つ活動」、「福祉や国際交流などボランティア活動」、「母国出身者のために役立つ活動」はいずれも「してみたい」割合が最も高くなっている。「母国語や母国文化を生かせる交流活動」および「特技や趣味を生かせる文化・スポーツ活動」をしている割合は各 10.4%で、その他の活動をしている割合はいずれも 10%に満たない。

問 43 あなたは、仕事や学業以外で何らかの社会活動をしていますか。

またはどのように考えていますか。

表 43 社会活動

		している	してみたい	する予定なし	無回答	計
母国語や母国文化を生かせる交流活動	N	41	142	160	53	396
	%	10.4%	35.9%	40.4%	13.4%	100%
自分の仕事や学業(専攻)を生かせる交流活動	N	25	146	160	65	396
	%	6.3%	36.9%	40.4%	16.4%	100%
特技や趣味を生かせる文化・スポーツ活動	N	41	164	137	54	396
	%	10.4%	41.4%	34.6%	13.6%	100%
住民として地域のために役立つ活動	N	38	186	120	52	396
	%	9.6%	47.0%	30.3%	13.1%	100%
福祉や国際交流などのボランティア活動	N	23	174	144	55	396
	%	5.8%	43.9%	36.4%	13.9%	100%
母国出身者のために役立つ活動	N	27	177	134	58	396
	%	6.8%	44.7%	33.8%	14.6%	100%
その他	N	8	13		375	396
	%	2.0%	3.3%		94.7%	100%

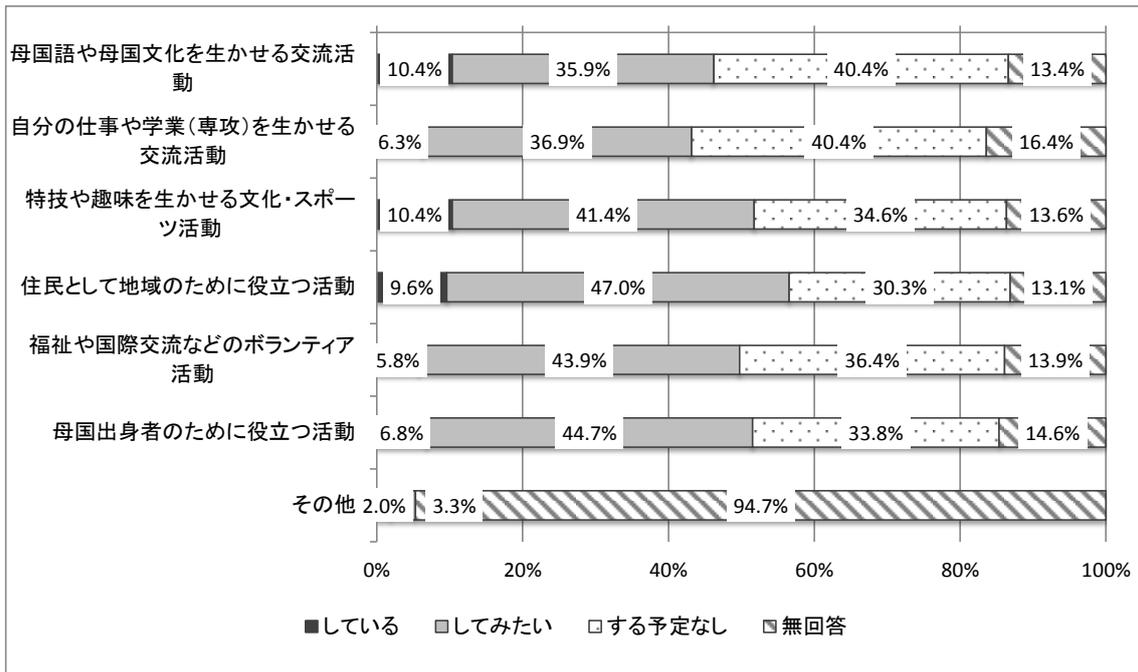


図 43 社会活動